

文科省には医学教育課があります。しかし、他の学部の教育課、たとえば、法学教育課や工学教育課といった課はありません。大学には医学部の他に多くの学部があるのですが、何故でしょうか。医学系の教育は、他の学部に比べ特別なのでしょうか。

医学部には医学部のカリキュラムがあり、他の学部もそれぞれ特有のカリキュラムがあり、医学部だけが特別といったことはありません。予算の配分も医学部だけ特別といったことはありません。ただ、医学部には付属病院がありますが。ただ、それだけで医学教育課が必要なのでしょうか。とにかく医学教育課は、文科省で特別な位置にあるようです。

不思議に思うことは、医学教育を体験された（医学部卒の）医学教育課長さんが居られたことはないと思います。歴代の医学教育課長さんは、キャリアー官僚で、東大や京大の法学部や文系の出身者がなられています。医学教育を受けられた体験はありません。

実際に医学教育を体験されていれば、現在の日本の医学教育の改善に役立つ筈です。課長席で話を聞き、データを解析し、ときどき、医学部を視察に出掛けられるぐらいでは、教育現場や各医学部がその地域で果たしている現状（厚労省も関係がありますが）などは、詳しくは分かりませんし、改善のアイデアも出ないでしょう。

日進月歩の生命科学の知識を利用する医学部に、旧態依然とした講座体制や制度が存続し続けることは見直されるべきでしょう。

そのような改革には、医学部内の努力も必要ですが、文科省の規制の見直しや新しい目標づくりの後押しも必要です。ただ、文科省が旧態依然ではどうにもなりません。

現場を熟知された医学教育課長さんが誕生し、その課長さんの改革的発想と活躍があれば、日本の大学の医学部はさらに発展することと思います。